

2019MFJ 全日本スーパーモト選手権第 2 戦 HSR 九州サーキット参戦レポート

MFJ 全日本スーパーモト S10open クラス#17 薄井保彦

5 月 12 日熊本県 HSR 九州にて開催された全日本スーパーモト第 2 戦に参戦しました。

レースでは初の九州上陸。当然初走行のサーキットです。

木曜日の夜に東京を出発し、3 人交代でひたすら走り福岡に翌日昼の 12 時着。出張時によく食べている天ぷらを昼食に。その後は黒川温泉で疲れを癒します。

黒川温泉では 30 軒ほどある温泉宿に温泉手形という物を買くと 3 軒まで温泉に入れます。

が、あまりゆっくりして睡眠時間が少なくなつては本末転倒なので 1 軒 2 0 分と決め強行で 3 つの温泉に入りました。

3 つの温泉はどれもいい湯で今度はゆっくり行きたいと思いました。



さて、本題のレースです。

まず 11 日、前日練習。初走行なのでまず、コースの攻略を考えます。HSR はモタードでは高速の部類に入るサーキット。普段はリア 48 丁のスプロケットで走っていますが今回は 45 丁に交換して 1 本目を走行。

それでも高速コーナーで 5 速に入ります。45 丁でも走れますがトルクフルな 19 年式 FS450 だと余裕を持って

44 丁でも行けそうなので初の 44 丁に交換。結果フィーリングが良かったので 44 丁で行く事にします。

前日練習では人のタイムが分からないので自分が大体どの位置かの判断が付き難く、高速コーナーを気持ち良く走れる半面、スピードにつなげて行くのは意外と難しいので不安に駆られながら前日練習は終了。

レース本番の 12 日。天気は快晴で雨の心配はなさそうです。

今回はハスクバーナ東名横浜チームからは 3 台エントリー。



まず公式練習。ここは新品タイヤの皮むきと体のウォーミングアップで軽めに走ります。

続いてタイムアタック。ダートが圧倒的に遅い自信が有ったので早めのコースインで抜かれながらタイムが出せない事を嫌い真ん中より後ろでコースイン。ところが 22 台エントリーのクラスは逆に混雑してクリアラップが取り難い状況です。

1度クリアラップでタイム出しをして、でもまだ余裕があるのでさらにタイムアップを目指すも前の選手に詰まり1周捨て、ある程度間合いを取って仕切り直すも減速した選手に追いつき失敗。時間的に8周しかできない予選、あと1周にすべて賭けようとした所でチェッカー。

不完全燃焼の中 22 台中 17 位の結果でした。

ただ、1秒以内に7台いる状況なのでヒートレース次第では上位を狙えます。

続いてヒートレース。HSR サーキットはスタートしてすぐにダートコースに入るので 22 台エントリーの S10open クラスでは必ずダートでハプニングがあると踏み、逃げられるラインをイメージしてスタート。



やはりスタート直後転倒者続出で一気にダートで 10 番手まで上げます。

ただ、自分もダートは得意でない中、3 周目終えた頃から後ろで叫び声が聞こえ始めます。5 周目位の 1 コーナーダートの進入で千葉選手が大スライドしたまま自分のインに飛び込んできます。スピード的に止まれなさそうですがスライドマイスターの千葉選手ならクリアするのかな？と自分のラインは崩さないでこちらも 1 コーナーに進入すると止まり切れない千葉選手のスライドしている後輪が自分の前輪にヒット。こちらの前輪は路面を離れ千葉選手のリアホイールに乗ってしまいます。

転んだ！と思いましたが自分に当たったのをきっかけに千葉選手はグリップを戻し脱出。そこで自分も何とかバランスを取り戻して転倒せずに済みました。

ただ、この間に 1 台に抜かれ更に千葉選手にも抜かれて 12 位。その後また 1 台に抜かれ 13 位でヒートレースを終えました。

左回りの HSR サーキットは高速コーナーも左でタイヤは片方だけ減っていきます。昼休みに前後タイヤを逆履き、予選ヒートでの接触で左側ラジエターが曲がっていたのを修正、シフターの感度が悪いのも大崎監督に補正してもらいして決勝レースに挑みます。

いよいよ決勝レース。またダートでのごたごたに巻き込まれないように 5 列目左側からのスタートですが、スタート後は可能な限り右に振り、左ダート進入のイン側の渋滞に巻き込まれないコースをイメージします。

決勝スタート。



イメージ通りのスタートでイン側の渋滞は避け比較的空いているラインを走行。左カーブも中央寄りの安全なラインを走行で 5 連フープス。中央寄りのラインのまま進入で前に詰まりアクセルを一瞬戻した所エンジンストール。



だいぶ良い位置に付けたのに 1 周目なのでバンバン抜かれていきます。ハスクバーナの武器セルボタンを押すもセル廻らず。慌ててニュートラルを探しエンジン始動。いや、今考えると何速でもハスクバーナのセルは廻るので慌てていてセルボタンを押す力が弱かったのだと思います。まあ、そんな事でほぼ最下位。目の前は石崎選手。

ダート、そこからのターマックの加速は向こうが速くその後の高速区間ではこちらが詰まります。気を取り直して今回のコースで 1 番の高速コーナー。今シーズンハングオンは封印予定でしたがここでは明らかにハングオンの方が早いので今回は早くも封印解除。左ひざを地面に接触すると…この感触は、、、バンクセンサーいなくなってますね。1 周廻ってさっきストールしたダートで蛍光黄色に輝く自分のバンクセンサーを発見。残り 11 周左バンクセンサーは無しで走行ですね。

大した影響は無いけど 5 速全開になるコーナーで膝が擦れないのはバランスを取り難く少し怖いです。

勝負の方はポイント圏外だとは思いますがここは諦めずに、というより純粹にバトルを楽しみます。

抜けそうなポイントが一番スピードが出る左コーナーから切り返しの右進入、もしくはその後のホームストレートからダート進入にかけての2か所。周回数はたっぷりあるので何度も仕掛けるもポイント圏外で当たってお互いにリタイヤなんて事は避けたいのでマージンを取りながらインを探ります。

2回ダート進入で、1回切り返しで並びかけるも簡単には前に行かせてくれません。

ヒートレースでは追われる身で長く感じた7周。12週の決勝レースはあっという間にラストラップの表示。

最後は最終コーナーのラインを立ち上がり重視にしてゴールラインまでに抜く作戦。

さて、最終コーナー。狙い通りに少しコンパクトに曲がり、立ち上がり重視のラインをトレース。



短いゴールラインまでの間で車体を右に並べます。ここで石崎選手が右に寄ってきてバイクが接触。



最終ラップでなければ引きますがこちらも追いついている状況。アクセルを開け続けます。前輪を引っ掛けて転倒の予感が頭をよぎりながら接触したままゴール。



0.027 秒差で負けました。1 コーナーは 2 台とも曲がれるはず無くコースアウト。お互いで指を差し合い U ターンしてコースに戻ります。



レースが終わって石崎選手とは言葉交わす前にハグ。普段なら不気味な事も何故か良いバトルの後では言葉より先に体が動きます。

結果 17 位でノーポイントでしたがすごく充実したレースが出来ました。

また、今回の為に熊本まで千葉から 3 人、長崎から 1 人友人が駆け付けてくれました。感謝でいっぱいです。

本当は結果を残さないといけないかもしれませんが、今回は純粋にバトルを楽しめ旅気分も味わい充実した週末でした。

次回は福島県のエビスサーキットです。

次は結果を残せるように調整していきます。